

令和6年 第4回福祉医療常任委員会所管事務調査報告書

令和6年5月21日

別海町議会議長 西原 浩 様

福祉医療常任委員長 外山 浩 司

福祉医療常任委員会の所管事務調査を実施したので、別海町議会会議規則第77条の規定により、次のとおり報告いたします。

記

《第4回》

1 日時

令和6年5月20日（月） 午前10時から午後12時40分まで

2 開催場所

委員会室3

3 出席委員

外山委員長、宮越副委員長、中村委員、小椋委員、高橋委員

4 欠席委員

なし

5 委員外

なし

6 協議事項

- (1) 町立別海病院の運営について
- (2) 子ども・子育て支援について
- (3) 第7次別海町総合計画について

7 説明員の職と氏名

病院事務長 三戸俊人、病院事務課長 椋木直人、事務課主幹 奈良司、
事務課主幹 大森圭介
福祉部長 干場みゆき、福祉課長 石戸谷友絵、介護支援課長 高橋勇樹、
老人保健施設事務長 渡辺久利、福祉課主査 大森晴海

保健生活部長 小川信明、保健生活部次長 千葉宏、保健生活部次長 谷村将志
生活環境課長 上田健一

8 協議結果

(1) 町立別海病院の運営について（病院）

- ・ 質疑等については、別添要点記録のとおり
- ・ 勤務医が3月に退職し、2名減になったが宿直や土、日の勤務を外部委託で対応して現在勤務している先生方の負担軽減進めている状況。何よりである。
- ・ 医師確保は、全国的な課題である。確保に向けて「別海らしさ」を打ち出し依頼していくべきではないか。

(2) 子ども・子育て支援について（福祉部）

- ・ 質疑等については、別添要点記録のとおり
- ・ 子育て支援センターが公民館から児童館に場所が移動になったが、以前に比べ「すくすく教室」などに参加しにくいのでは。また、担当者が変わると相談などを気軽に出来なくなる様だ。
- ・ 相談員は、継続して馴染みの先生が適している。その都度、説明するのではなく相談者の家庭の事なども知っていて気軽に相談できると良い。
- ・ 包括支援センター的な部署が、子育ての相談窓口になり、そこから担当機関などに結びつけると保護者としても利用しやすいのでは。
- ・ 総合窓口の話題もあったが、窓口は1つの方が良いのでは。
- ・ コロナ禍以前は、幼稚園の保護者会があるとそこから、親同士のサークル的な組織が誕生して、子育てなどの相談ができたりしていた。小学校のPTAの組織なども昔の「井戸端会議」のような相談したりできるまでになっていない様だ。つながりが弱くなってきている。

(3) 第7次別海町総合計画について（保健生活部）

- ・ 質疑等については、別添要点記録のとおり
- ・ 出産祝金が、10万円に値上げになり喜ばしいが、金額だけの問題ではなく誕生後の子育てがしやすい環境が大切である。
- ・ 子育て支援の対応が福祉部と母子健康センター、保健課と分かれるが担当部署ごとの連携を強め対応してほしい。

9 その他

(1) 保健生活部の調査内容

- ①別海町鳥獣被害防止計画について（エゾシカ被害対策、捕獲状況など）
- ②自然環境の保全について（河川環境など）
- ③交通防犯について（交通安全指導員の状況、自転車のヘルメットの着用状況、購入補助）
- ④一般廃棄物処理計画について
- ⑤墓地、斎場の維持管理状況について（合葬墓の利用状況、東西地区の合葬墓の建立など）

* 今後、ラインワークスを活用して6月議会に向けまとめていく。

(2) 一般質問の内容検討

◎別海町立病院の医師の確保と診療所の将来について（常任委委員会 代表質問）

・西春別駅前診療所と尾岱沼診療所の今後の継続に向けての検討

* 更にラインワークスを活用してまとめていく。→5月29日の検討会で確認

以上